

思い出と美味しさがつまった桃

高崎市立城東小学校 五年 伊藤 唯人

ぼくは、桃が大好きです。だから、いつもぼくが食べている白桃について調べてみました。白桃は、一言で言うとう果肉が白色系の桃です。大きさはやや大きめで、味は甘味が強いです。比較の日持ちが良いのも特長です。また、白桃には外皮が赤系と白系のものがあります。

ぼくの家には、夏になると福島県から桃が届きます。福島県は東日本大震災の影響を受けて県です。その時は、桃などの農作物が育てられなくなったり、出荷できなくなったりして、農業は危機に陥っていたそうです。福島県の人々は、「どうにかしてみんなに農作物を届けたい」と思い、一生懸命にあれてしまった土地を整備したり、くずれた道路を直したりしました。そして、今のように桃などを無事に育てたり届けたりできるようになりました。だから、努力してつくってきた桃を、今よりもさらに味わって食べたいです。

ぼくは、桃が届くとうれしくなります。夏が来るまで約一年も待ったからです。送られてきた桃はどれも甘くて、ほっぺが落ちるほど美味しいです。お父さんが皮をむいている時に待ちきれなくて、つい横からぬすみ食いをしてしまいます。食べている時はとても幸せです。

この桃は、お父さんの大学の頃の友達から届きます。だから、この桃を食べていると若い頃を思い出し、なつかしくなると言っていました。桃は、ぼくもお父さんもいい思い出があるんだな、と思いました。

ぼくは、これからも農家の方が一生懸命作った桃を、味わって大切に食べていきたいです。また、桃などの果物にはビタミンや食物繊維などの栄養がたくさんあるので、みんなで食べて、コロナに負けない元気な体をつくっていききたいです。